

## 平成30年度 文学部人文学研究科 国際化推進室 活動報告

国際教育交流センター教育交流部門

グリブ ディーナ

## 1. はじめに

平成30年度分の国際教育交流センターおよび文学部・人文学研究科における業務に関する報告を行う。

## 2. 留学生の受入業務

## 2. 1. 私費外国人研究生の受入

私費外国人留学生の受入は、文学部・人文学研究科国際化推進室の業務の一つであり、国際化推進教員2人体制にて対応している。

本部局では、指導教員からの内諾が出願の条件となっており、内諾申請のルートは、分野によって国際化推進室が窓口になるルートと教員に直接コンタクトを取るルートの2つに分かれている。さらに、国際化推進室経由で申請が受理される応募者に対して、国際化推進教員2人で分野ごとに分担し、申請書類の確認およびWeb面接を実施し、応募動機、それまでの学習・研究経験、言語運用能力について受入予定行員に報告する。面接は原則日本語で実施するが、指導教員の希望により英語力確認も行う。また、指導教員に面接に立ち会ってもらう場合もある。

表1. 私費外国人研究生の応募状況

入学時期	ルート	申請者	内諾者	出願者
2019年 4月	推進室	78	15	12
	直接	N/A	15	12
	合計	93以上	30	24
2019年 10月	推進室	133	36	33
	直接	N/A	20	18
	合計	153以上	56	50

2019年4月入学分につき、国際化推進室に申請した78名のうち、書類確認35名、Web面接実施15名、内諾発行7名を筆者が担当した。2019年10月入学分につき、国際化推進室に申請してきた133名のうち、書類確認58名、Web面接25名、内諾発行17名を担当した。

## 2. 2. MEXT 国費留学生の受入

2019年度大使館推薦による日本政府（文部科学省）奨学金「研究留学生」プログラムへの応募は、筆者が在外公館における第1次選考合格者から応募書類を受理し、指導教員に受入可否の確認を行い、応募者に結果を知らせる形で実施した。受入内諾者に対して、入学試験のスケジュール、入学前の準備に関する指導を行った。

24名からの申請を受理したが、14名に対して受入内諾書が発行された。図1から窺えるように、日本語のプログラムを希望する応募者の合格率が比較的低かったが、研究領域の不一致および日本語力不足が主な原因であったと考えられる。なお、文部科学省による第二次選考の結果、本部局で7名の受入の依頼を受けた。

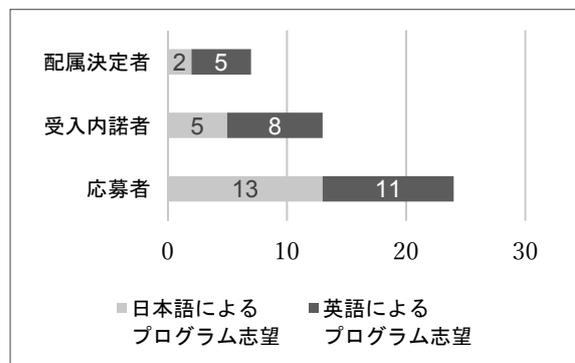


図1. 2019年度 MEXT 「研究留学生」 応募状況

なお、2019年度大学推薦による日本政府奨学金「研究留学生」プログラムへの応募を協定校の在学学生2名から受け付けたが、研究領域不一致のため、適切な受入教員がおらず、受入に至らなかった。

一方、2019年度大学推薦による日本政府奨学金「日本語・日本文化研修留学生」プログラムへの応募を協定校の在学学生5名から受け付けた。日本語能力試験未受験の応募者2名に対して、筆者と窓口教員の2人体制でWeb面接を実施し、JLPT N2レベル相当以上であることを確認した上で、5名全員を本研究科から推

薦した。

### 2. 3. リクルーティング

2018年7月14日、JASSOによる留学生進学フェア大阪会場に参加、近畿地方の日本語学校などの在学生との個別相談の形にて名古屋大学の諸プログラムおよび入学試験について紹介した。

2018年11月28日、人文学研究科大学院説明会（オープンキャンパス）で留学生ブースを設け、国際化推進教員2人で入学希望者の相談に対応した。

## 3. 在学留学生の支援関連の業務

### 3. 1. 留学生相談

名古屋大学大学院人文学研究科は、2017年4月に、大学院文学研究科、国際言語文化研究科、国際開発研究科国際コミュニケーション専攻の統合により発足したが、筆者は人文学研究科および旧国際言語文化研究科の在学生への対応が中心となっている。

入学希望者からの入学試験および研究生受入に関する問い合わせが量的に多く、大多数占めているが、筆者を含め国際化推進教員2名および事務員1名の体制で対応している。

在学生からの相談につき、筆者が対応した分は、在留手続き、アルバイト、日本での日常生活、大学施設の利用、奨学金申請、帰国の準備、進路相談など内容が多岐に渡っている。

特に学習・研究・進学面の相談は、継続的な対応を必要とするケースが多く、修士論文の作成に難航し、メンタル面でのサポートを必要とするケースもあった。

留学生相談については、筆者の就任による留学生相談担当者の変更の影響もあったと考えられるが、深刻な相談内容が部局の留学生相談を経ずにアドバイジング部門に持ち込まれる傾向が読み取れる。2019年度以降、部局の留学生相談室で対応可能なケースにはなるべく部局で対応する仕組みの構築は、筆者の今後の課題であると考えている。

### 3. 2. チューター関連

文学部・人文学研究科国際化推進室では、年度内2回、新入留学生に対してチューターを配置し、チューター・留学生・国際化推進教員の3人で個別面談を実施している。

春学期入学分は、筆者が4月に就任したため、4月上旬から数名分のみ担当した。秋学期入学分については、9月末から10月上旬にかけて国際化推進教員2名で分野ごと分担を分け、筆者が23件個別面談を実施し、新入生の生活状況や学習環境について確認した。

また、2018年度後期からチューター支援に関するアンケートを開始し、マッチングの改善等を目指している。

さらに、本部局では博士前期・後期課程の修了見込み者に対して論文ネイティブチェック・チューターが配置されているため、7月に2018年度修了見込者にネイティブチェック・チューターの配置を行なった。

筆者は、33名の留学生と、そのチューターとの3者面談を実施し、論文執筆の進捗状況や修了後の進路について確認した。面談の結果、サポートが必要だと思われる留学生に対して継続的に面談を実施し、支援を行なった。

### 3. 3. 各種オリエンテーション

2018年9月の全学新入留学生オリエンテーションで在留手続きに関する英語説明を担当し、他部局の留学生と触れ合うチャンスに恵まれた。また、引越しオリエンテーションに6月は研修、11月は研修およびサポートのため参加した。

その他、交換留学（NUPACE）生および日本語・日本文化研修生の開講式、春学期はインタナショナル・レジデンス東山、秋学期はインタナショナル・レジデンス山手の宿舎ガイダンスに参加した。

なお、部局では、文学部・人文学研究科の新入非正規生ガイダンスに、4月は研修のため参加し、10月は後半部分を担当した。さらに、人文学研究科の教務ガイダンスやG30新入生ガイダンスにも出席した。

### 3. 4. その他の在学生支援

人文学研究科および旧国際言語文化研究科の在学生を対象に週1回、日本語添削室を開室し、担当者の雇用管理を行い、業務上のトラブルに対応した。

交換留学（NUPACE）生6名の受入教員として、指導を担当した。

2017年度に発足した人文学研究科のホームページにおける留学生支援関連の内容、留学生のための入学情報、チューターバンクへの登録案内、海外留学説明会関連の案内などのコンテンツの充実に努めたが、英語

版を初め来年度以降も引き続き取り組む予定である。

#### 4. 短期プログラムおよび来校者対応

文学部のもとで実施されている韓国の木浦大学短期受入プログラム、名古屋大学短期日本語プログラム(NUSTEP)で専門講義などを担当した。また、JST さくらサイエンス中国科技大学生招聘事業の枠内で研究室訪問の引率をするなどして、文系以外の短期受入プログラムの仕組みのノウハウに対する理解を深めた。

2018年7月に南開大学生団体の訪問対応をサポートし、参加学生の前でプレゼンテーションを行なった。

6月にフランスのINALCOからの来校者、10月にエストニアのタリン大学からの来校者を部局で迎えた際に、その対応に参加した。

2018年8月に韓国、木浦大学で行われた日韓大学院生研究集会への人文学研究科の院生6名の引率に加わった。

#### 5. その他の業務

上記の他にも、2019年度入学分のG30言語学文化研究プログラムの入学試験委員、中国語スピーチコンテストの運営補佐等、部局および全学の業務に取り組んできた。

さらに、就任一年目であったため、学内外で国際的多様性ゼミナール、留学生受入&輸出管理、研究倫理、ハラスメント防止、メンタルヘルスケア、性的個性と学生支援等のFD、研修会、講習会積極的に参加し、留学生支援の向上につながる知識習得に努めた。その中でも、IDE 大学セミナー「いま求められる就職支援とは」ならびに留学生教育学会による留学生担当教職員研究会「留学生の活躍に向けた多様性のある組織作り・人作り」の内容が、2019年度文学部・人文学研究科の留学生就職支援事業の企画のために大いに参考になった。

#### 6. 今後の課題

2019年度は、2018年度の活動結果、反省点等を踏まえ、一層留学生の支援、人文学研究科における国際交流の促進に取り組みたいと考えている。